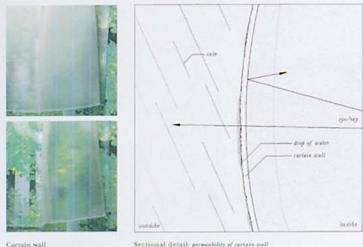
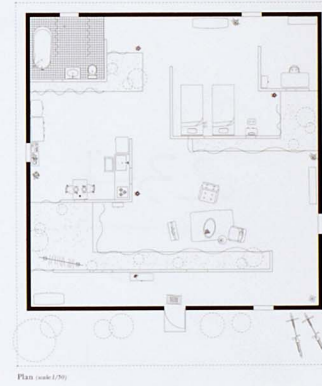
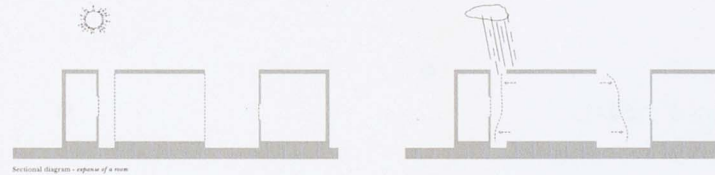


「雨の家」

雨は瞬時にして世界を変える。

カウカウと晴れた日の後に降る雨であれば、それは尚更である。昨日まで見えなかったものが、そこに生まれていたりして、キラキラ光る地面や水たまり、息を吹き返したように生い茂る草木、降り続く雨は、人を家の中に引き込ませたりもするけれど、雨はそれ以上に我々に確かな意思を与えてくれる。雨の匂い、音、それによって影られる影、雨上がりの空から漏く漏く光。

この家は、幼い子供が初めて手にするお気に入りの傘や長靴と似ている。雨を待ちこがれ、はしゃぎ回るように、空風や景色、木々の緑ろいという微妙に変化する、そんな世界を見逃すことなく感じ取る。雨を待ちわびる家となるだろう。



カーテンウォール、外部側の表面をエッチングによる半透明テクスチャーとし、その面が雨による水膜で濡れた時、劇的に透明に近づく。拡散されていた光の屈折率が水によって一方向に修正され、降り合うものが透けて見える。その時、建築の内部（壁）は外部へ拡張され、部屋は内と外の境界があいまいな状態になる。
同時に建築は（建築部材となる壁等）、サブジェクトとしての機能を失い、オブジェクトに徹する雨の背景となっていく。カーテンウォール素材は、光の透過率による視覚的な空間の変化だけに依存するのではなく、物理的な効果も演出する。雨による微妙な気候の変化をも感じ取ることができるようになるだろう。